

夜に居場所がない子ども・若者のための  
「夜のユースセンター」開設・運営

# 報告書

認定特定非営利活動法人育て上げネット

令和6年4月

# 実施場所について

## フラットおおた

大田区が行っている若者サポートセンター。子ども・若者のための学校でも家でもない第3の居場所です。15歳から39歳までの大田区在住・在学・在勤の若者が利用出来ます。さまざまな悩みや困りごとを相談することができ、居場所でのスタッフとの“つながり”や活動体験などを通して、前に一步踏み出すことをサポートしています。

## 参加者特性

フラットおおたの「夜のユースセンター」は、ひきこもり状態にあり、親しく話をする人がいない。学校・会社に通っているが友人と呼べる人がいない等、社会から孤立・孤独状態にある若者。ひとり暮らしで寂しく孤食している若者、家族と暮らしているが食事はばらばらでしている若者、経済的な問題で毎日三食食べることが困難な若者が参加しています。

一緒に楽しめる仲間が欲しい若者にとっては、家以外の居場所として安心していられる場所として重要な役割を果たしています。様々なイベントや食事を一緒にすることで、孤独を抱える若者たちが元気を取り戻していく場所です。

多くの若者が、夜のユースセンターに参加することで、孤独感を和らげ、元気を取り戻す場となっています。

# ユースセンター活動

目標は毎週2回開催、1年間で計104回、平均利用者数は1回約10名程度を想定した。

実績は、基本的に週2回開催、合計84回、平均利用者数は1回約15.8名という結果になった。

開催回数は目標を達成することが出来なかったが、利用者目標(回数×平均利用者数)の1,040名を超え、1,285名となった。

利用者からは、「とても楽しい時間を過ごせた。」「食べることが目的ではなかったが、他の参加者みんなと話ができる時間が良かった」、等の言葉が寄せられ、参加者の満足度は高かった。



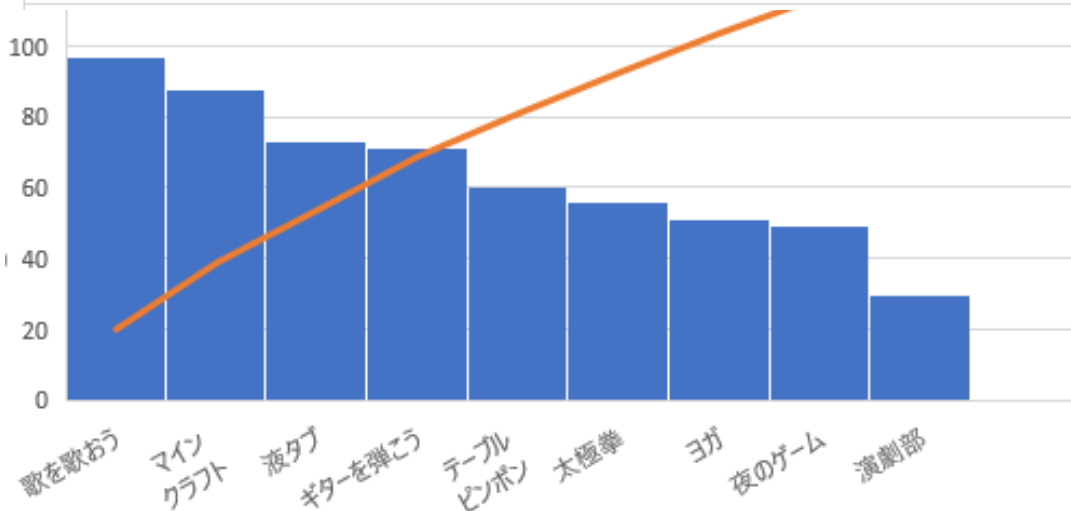
月別「夜のユースセンター」参加者数

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	結果
実施回数(回)	7	9	7	9	8	8	7	6	7	8	8	84
参加者数(人)	99	150	105	122	120	155	108	103	91	120	150	1,323
平均参加者数(人)	14.1	16.7	15.0	13.6	15.0	19.4	15.4	17.2	13.0	15.0	18.8	15.8

# 講習会・イベント

## イベント別参加者数

講座名	昼講座				夜講座					
	ギターを弾こう	歌を歌おう	ヨガ	液タブ	太極拳	マインクラフト	夜のゲーム	テーブルピンポン	演劇部	
参加人数	71	97	51	73	56	88	49	60	30	
	昼講座参加数								夜講座参加者	283
									参加者合計	575



さまざま講習・イベントを、助成金で購入した物品を利用して、多くの若者と出会うために、昼と夜に111回(昼58回、夜ユース53回)を実施した。1回の参加者数平均は5.2人、延べ参加者575人(昼292人、夜ユース283人)の参加があった。また、多くの講習は職員が講師を務め、人件費は自己負担で行った。

# 講習会・イベントの発展

講習会・イベントで行っていた活動を、地域との連携を図り、お祭りや行政主催のフェスティバルで発表した。これにより、広く地域の方へ活動を知ってもらうことが出来た。

夏には約2万人が来所する「池上まつり」に参加、日ごろの講習会で練習したバンド、合唱の発表を行った。

クリスマスの時期には、蒲田駅前商店街のクリスマスフェスに参加。蒲田駅前広場で合唱を行い、地元の人たちにユースセンター活動をアピールした。

3月には大田区主催のヤングフェスティバルで合唱を行った。



# ソーシャルワーク

「夜のユース活動」を通して、福祉的サービスに繋がる必要がある若者と出会う機会が多かった。

活動を一緒に行うことで、これらの若者の信頼を得ることが出来、医療機関の利用や行政の福祉サービスにつなげた。

これらの実績により、地域の支援機関との優良な関係性を作ることができた。

## 関係性ができた機関

- ・大田区地域福祉課、生活健康課
- ・大田区社会福祉協議会
- ・大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ
- ・大田区生活再建・就労サポートセンターJOBOTA
- ・大田区ひきこもり支援室SAPOTA
- ・大田区立消費者生活センター
- ・ハローワーク大森

# 事業実施によって得られた成果と課題

夜のユース活動は参加した若者たちに、予想していた以上の変化をもたらした。他人との交流が苦手な若者が、活動を通じて仲間意識を持てるようになり、自然に会話ができるようになった。活動に目標を持つことにより、一緒に目標に向かって努力するようになり、地域の夏祭りやフェスティバルのステージで発表することができた。

楽器(音楽)、ゲーム、イラストや動画などのクリエイティブは若者に非常に関心が高く、機材を揃えるとそれだけで居場所の魅力が上がる。公的施設でこれらの機材を揃えるのは予算確保や行政のルール上難しい場合も多く、行政や市民の理解促進や民間資金の活用が不可欠となる。

若者の継続的な利用促進には、食は非常に有効だと分かったが、食の提供を続けるにはフードパントリーとの協力や継続的な寄付者の存在など安定的運営体制を構築する必要がある。

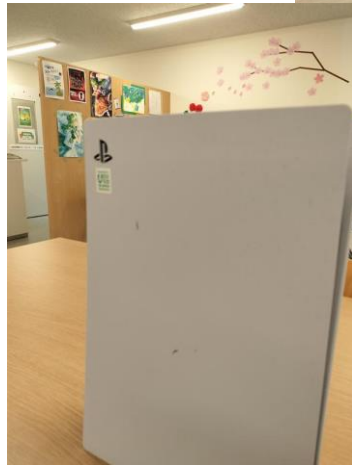
安全な居場所としての運営には成功しているが、その先さらに若者が自分の将来を考え行動するためには、外部機関・資源との連携や、居場所の雰囲気・イベント内容・スタッフの関わり方など更なる工夫は必要だと考える。具体的には、フラットおおた以外に若者が居場所として利用出来るところや、食事を提供してくれる場所を増やしていく必要がある。



# 助成金により整備できた物品



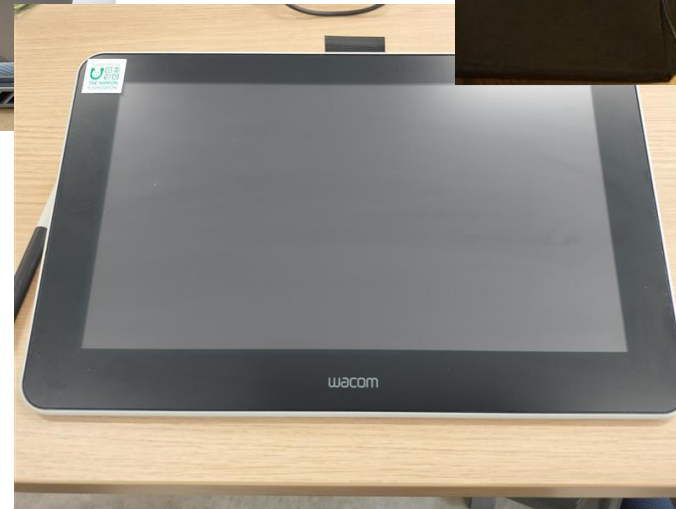
動画撮影用カメラ



ゲーム機



ゲームマシン



液晶タブレット





# 助成金で整備できた物品



スポーツミラー



ミキサー付き  
スピーカー



カフオン



ギター



電子ドラムセット



譜面台

# 助成金で整備できた物品



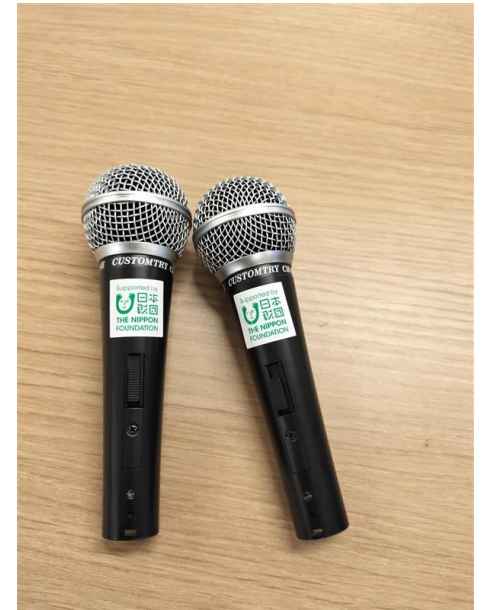
電子ピアノ



ギターアンプ



エレキギター



ボーカルマイク